

# 雨畑ダム周辺地域における浸水対策について

2019年の台風10号および19号の豪雨による影響を受け、当社の子会社である日本軽金属㈱の自社施設である雨畑ダム上流の雨畑川の水位が上昇しました。これにより、雨畑ダム周辺地域にて浸水被害を発生させてしまいました。

地域住民の皆さまをはじめ、関係する皆さまに対しまして、多大なご迷惑とご心配をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

雨畑ダムでは、維持管理のために従来より貯水池の堆砂除去を行ってきました。しかし、流入土砂の堆積により貯水池上流域の河床が上昇し、一部地域に浸水被害をもたらしてしまつたため、地域の安全確保を最優先に対策を講じてきておりました。

そのような中、国土交通省による雨畑ダム定期検査では、平成26年より4回連続してA判定(直ちに改善の措置が必要)を受けており、令和元年の検査結果通知後に国より抜本的な解決に向け、堆砂対策の計画をとりまとめ、計画的に取り組むよう指導されました。

## 参考1 指導内容

- **雨畑ダム定期検査結果に対する対応について**  
**令和元年8月9日 国関整甲河管第13号**  
 日本軽金属(株)蒲原製造所長あて  
 国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所長通達定期検査での指摘事項
  - 堆砂対策が行われているものの堆砂量が確実に減るように対策の強化・改善を検討すること
  - 堆砂の抜本的な解決に向け、堆砂対策の計画をとりまとめ、計画的に取り組むこと
  - 変形等の異常は見られないものの堆砂量が堆砂容量を超過しているため、ダム堤体への影響などについて検討すること

この指導を厳粛に受け止め、抜本的な解決に向けた堆砂対策を早期に計画し、より実効性のあるものにするため、日本軽金属㈱は2019年9月に国土交通省、山梨県、早川町とともに『雨畑地区土砂対策検討会』(以下、検討会)を設立し、周辺地域における浸水被害発生に対する応急対策および堆積土砂の抜本対策について検討を重ねました。

## 参考2 検討会の経緯

- **第1回検討会 令和元年9月3日**
  1. 雨畑地区土砂対策検討会設立の趣旨
  2. 雨畑ダム概要、土砂堆積除去に至る経緯
  3. 土砂対策計画策定に向けた課題とスケジュール

- **第2回検討会 令和元年12月20日**
  1. 台風19号復旧状況および応急対策
  2. 土砂除去に向けた計画案
  3. 今後の予定

- **第3回検討会 令和2年2月4日**
  1. 前回の報告事項とご指摘事項
  2. 応急対策について
  3. 抜本的対策に向けた検討状況
  4. 搬出スケジュール案
  5. 今後の予定

- **第4回検討会 令和2年3月25日**
  1. 雨畑ダム堆砂対策検討経緯
  2. 前回までの指摘事項と対応状況
  3. 雨畑地区土砂対策基本計画の内容
  4. 堆砂によるダム堤体への影響

2020年3月まで4回にわたる検討会を経て、雨畑地区の堆砂対策の内容について、国土交通省、山梨県、早川町に同意をいただき、これを踏まえ、とりまとめました『雨畑ダム堆砂対策基本計画書』を国土交通省に提出いたしました。

## 参考3 雨畑ダム堆砂対策基本計画(令和2年4月30日)の概要

1. **雨畑ダム堆砂対策基本計画の位置づけ**  
 雨畑ダムの貯水池上流ですでに浸水被害が発生していることから、計画においては、早期に浸水・土石流被害を解消するとともに、将来的に雨畑ダム貯水池の機能を確実に発揮することを目指していく。  
 そのため、本基本計画では、短期計画【ステップ1】、中期計画【ステップ2】、長期計画【ステップ3】の3つの段階に分けて実施すべき内容を位置づけた。  
 今回提出した計画は地元の生活環境に最大限配慮し、現実的に対応可能な堆砂土砂の搬出目標を示した上で、



雨畑ダムの様子(2009年撮影)

実施可能な対策計画を策定し、直ちに着手するため、2020～21年度の短期計画(浸水・土石流被害の解消)に重点をおいている。

2022年度以降の中期計画についても、引き続き、地元の早川町や身延町、国、山梨県の協力も頂きながら、土砂処分地の確保として地域ニーズのある造成地の盛土材料として有効活用できる候補地を見つける等、対処していくものとする。また、進捗状況に応じ、フォローアップ検討会に於いて逐次基本計画を見直し、過去最大規模の土砂流入へ備えた容量確保に向けて実行可能な対策を策定し進めていく。

更に、雨畑ダムは土砂生産が国内でも顕著に多く、堆砂量が莫大であるなど堆砂対策を検討する上で多くの課題を有しているため、安全な堆砂状態を維持するために幅広い視点での方策について引き続き検討を行い、フォローアップ検討会に諮りながら堆砂容量を継続的に維持していく対策(継続的堆砂対策)を長期計画として位置付けるものとする。

## 2. 雨畑ダム堆砂対策基本計画の概要

- (1) 短期計画【ステップ1】  
**期間** 令和2年度(2020年度)～令和3年度末(2021年度末)  
**目標** 浸水・土石流被害の解消(常時満水位以上の堆積土砂の除去)  
 浸水・土石流被害を及ぼすと考えられる既堆積土砂の移動・搬出(推定300万m<sup>3</sup>相当)

- 内容**
  - 応急対策
    - ・ 仮設堤防の建設
    - ・ 河道の確保
    - ・ 県道保護盛土工、仮設道路工などに湖内一時活用
  - 抜本的対策
    - ・ ダム下流部への搬出ベルトコンベアの能力の増強
    - ・ 土砂の活用(骨材資材としての利用、河川内運搬道路、造成用盛土等)
  - 継続的堆砂対策の検討
  - フォローアップ等

- (2) 中期計画【ステップ2】  
**期間** 令和4年度(2022年度)～令和6年度末(2024年度末)  
**目標** 過去最大規模の土砂流入へ備えた容量確保として堆積土砂300～400万m<sup>3</sup>を撤去  
**内容**
  - 土砂の活用(骨材資源としての利用、造成用盛土等)
  - 継続的堆砂対策の検討及び実施
  - フォローアップ等

- (3) 長期計画【ステップ3】  
**期間** 令和7年度(2025年度)～  
**目標** 安全な堆砂状態の維持  
**内容**
  - 土砂の活用(骨材資源としての利用、造成用盛土等)
  - 継続的堆砂対策の実施
  - フォローアップ等

この雨畑ダム堆砂対策基本計画の実施状況を確認するため、日本軽金属㈱は6月11日に雨畑地区土砂対策第1回フォローアップ検討会を国土交通省、山梨県、早川町と実施いたしました。第1回フォローアップ検討会では、基本計画に基づく対策の進捗状況を報告いたしました。

日本軽金属㈱は、今後も地域の安全確保を最優先とし、『雨畑ダム堆砂対策基本計画書』に基づき、関係する皆さまのご協力もいただきながら、計画を着実に実行してまいります。なお、2019年度の決算において、雨畑ダムについて2020年度から21年度にかけて行う対策費用として、110億円の特別損失を計上しております。



構築途中の仮設堤防の様子(2020年7月撮影)